

ペルー、議会クーデターの内幕

12月7日、ペルー国会が、カスティージョ大統領を罷免しようとした際、同大統領が議会を解散しましたが、議会は大統領に欠陥があるとして、大統領を罷免し、副大統領のボルアルテが大統領に就任しました。この権力争いの内幕を説明する貴重な記事がありますので、以下に紹介いたします。

リマ駐在の米国大使は、CIAのエージェントで、クーデターの前日にペルー国防相と会っていた

記者：ベンジャミン・ノートン

2022年12月17日 ムルティポラリスタ紙/クーバデバテ紙

★駐ペルー米国大使リサ・ケンナは、CIAやペンタゴンと協力していた。



駐ペルー米国大使リサ・ケンナは、CIAのベテランエージェントである。民主的に選出された左派のペドロ・カスティージョ大統領がクーデターで倒され、裁判も受けずに拘禁される前日に、ペルー国防相と会談していた。

ペルー陸軍の退役准将である国防相は、軍にカスティージョ大統領に反旗を翻すよう命じた。

この議会クーデターはペルー全土で大規模な抗議デモを引き起こした。選挙で選ばれたわけでもない政権は残忍な暴力を放ち、警察は何人ものデモ参加者を殺害している。

ベテランのCIA出身で在ペルー米国大使のリサ・ケンナは、大統領に選出された左派のペドロ・カスティージョに対するクーデターの2日前に、下記の写真が示すように、ボビオ、ペルー国防相と会談しているのである。



一方、アメリカ政府はペルーのクーデター政権を無条件に支持した。クーデター政権は、全国に「非常事態」を宣言し、街頭に軍隊を配置してデモを鎮圧しようとした。

メキシコ、アルゼンチン、ボリビア、コロンビア、ホンジュラス、ベネズエラ、キューバ、カリブ海諸国など、ほとんどのラテンアメリカ諸国政府はペルーのクーデター政権を批判し、承認していない。

CIA は、1954 年のグアテマラ大統領ハコボ・アルベンスから 1973 年のチリ大統領サルバドル・アジェンデまで、ラテンアメリカで民主的に選ばれた左派リーダーに対して幾度もクーデターを起こしている。

★ドナルド・トランプ政権は、2020 年のペルー大使にリサ・ケンナを指名した際、国務省は「国務省に入る前に、中央情報局（CIA）職員として 9 年間勤務した」ことを明らかにする「資格証明書」を発行している。

この重要な事実は、米国大使館のホームページのケンナのページも含め、ほとんどの経歴に書かれていない。不思議なことである。

米国務省は、下記のように 2020 年、リサ・ケナ駐ペルー大使が「中央情報局員として 9 年間勤務していた」ことを認めている。



REPORT FOR THE COMMITTEE ON FOREIGN RELATIONS
UNITED STATES SENATE

SUBJECT: Ambassadorsial Nomination: Certificate of Demonstrated Competence – Foreign Service Act, Section 304(a)(4)

POST: Republic of Peru

CANDIDATE: Lisa Kenna

Lisa Kenna, a career member of the Senior Foreign Service, class of Counselor, is the Executive Secretary of the Department of State and a Senior Advisor. She previously served as the Executive Assistant to the Secretary of State, and before that was Political Advisor to the Secretary of Defense. She was Director of the Iraq Office on the National Security Council at the White House, and Deputy Director of the Iraq Political Office at the Department of State. Ms. Kenna was chief of the Political Section at the U.S. Embassy in Amman, Jordan, and earlier served at the U.S. Embassy in Cairo, Egypt as a Political/Military officer. Ms. Kenna's extensive inter-agency background and senior leadership experience make her an excellent candidate to be the U.S. Ambassador to the Republic of Peru.

Earlier in her career, Ms. Kenna served at the U.S. Embassy in Mbabane, Swaziland, and the U.S. Consulate General in Peshawar, Pakistan. Before joining the Foreign Service, she served for nine years as a Central Intelligence Agency officer. Before joining the government, she was an attorney in private practice.

Ms. Kenna earned her B.A. degree at Middlebury College and a J.D. at the University of Connecticut School of Law. The recipient of numerous State Department Awards, she speaks Arabic, Persian and Urdu.

トランプ政権下では、ケンナは国務省の事務次官も務め、トランプの国務長官である、以前 CIA の長官であったマイク・ポンペオの「首席補佐官」を務めていた。

悪名高いスパイ機関での仕事について、ポンペオは、2019 年に次のように認めている。「私は、CIA 長官であったが、私たちは、嘘をつき、ごまかし、盗みを行った。訓練コースもあった」。

2020 年の米議会の指名公聴会でケンナは、首席補佐官としてポンペオ氏に送られたメモを「ほぼすべて」見ていたことを認め、さらに「彼による電話の大部分を知っていた」と述べている。

また、ケンナは、国防省に勤務したこともあり、イラク、ヨルダン、エジプト、スワジランド、パキスタンで国務省の役職に就いていたこともある。

★2021 年 1 月にジョー・バイデン大統領が就任すると、彼は、ケンナを駐ペルー大使に留任させた。

2022 年 12 月 6 日、ケンナは前日にペルー国防相に就任したグスタボ・ボビオ・ロサス退役准将と会談した（ある現地メディアは会談を 12 月 5 日と報道したが、誤報のようだ）。

ペルー国防省は、二人が仲良く談笑している写真を公開した（上記写真参照）。

この会議が開かれた当時、ペルーでは、右翼寡頭制勢力が支配する悪名高い腐敗した議会が、民主的に選ばれたペドロ・カステージョ大統領を打倒するために新たな投票を準備していたことが知られている。

★ペルー憲法第 113 条では、一院制議会が「欠缺（けんけつ）」と呼ばれる手続きで、「道徳的無能力」と宣言する投票だけで大統領を罷免することができることになっている。

ペルーの議会は、ひどい腐敗でよく知られている。悪名高い「ママニビデオ」事件では、極右政党「民衆の力」の議員が、右派のペドロ・パブロ・クチンスキー前大統領を擁護するために、他の議員に欠缺に反対票を投じるよう賄賂を贈る映像が撮影されている。

「民衆の力」は、1990 年から 2000 年までペルーを鉄拳制圧した極右独裁者アルベルト・フジモリの家族によって率いられている。フジモリは、米国の支援を受けて、推定 30 万人の先住民に不妊手術を行い、多数の左翼反体制派を殺害、拷問、行方不明にして大量殺戮を行った。

ママニビデオのスキャンダルは、ペルーの富裕寡頭制勢力が議会を票で買い、国民に選ばれた大統領を転覆させることが極めて簡単であることを示したのである。

そして、2021 年 7 月 28 日にカスティージョが大統領に就任するや否や、議会はまさにそれを実行しようとした。

★米国大使がペルー国防相と会談したわずか 1 日後の 2022 年 12 月 7 日、右翼が支配する議会は憲法 113 条を利用してカスティージョに大統領に対する議会クーデターを起こしたのである。

2022 年 9 月の時点でわずか 7% の支持率だったペルー議会による、わずか 1 年余りで 3 回目のクーデター未遂であった。

クーデターを阻止したいカスティージョは、議会の解散を図った。これは、ペルー憲法 134 条により、妨害行為があった場合に許可されていることである。

ポビオ国防相は直ちに大統領の行動を糾弾した。すると彼（3 日しか持たなかった）は、ポストを辞任するビデオを投稿した。



ボビオ国防相は、カスティージョ大統領が「クーデター未遂」を起こしたと主張したが、実際にはボビオが、寡頭制勢力が支配する悪名高い腐敗した議会に代わって、国民の支持を得ずに選挙で選ばれた大統領に対するクーデターを支援するようペルー軍に指示していたのである。

★ボビオが軍に大統領への反乱を命じたのに対し、アメリカ政府は、すぐにカスティージョを攻撃した。



ケンナ大使とボルアルテ新大統領。ケンナはツイッターで次のように書いている。「私はボルアルテ大統領と会談し、民主主義の擁護と制度の尊重に対する米国の関与をあらためて表明した。そして、大統領府とともに、彼女が公約した統一政府の発足により、私たちはペルー・米国関係が強化されることを期待している」

CIA のベテラン職員で現ペルー大使のリサ・ケンナは、「米国は、議会がその使命を果たすのを阻止するためのカスティージョ大統領によるいかなる超憲法的行為も断固として拒否する」とツイートしている。

しかし、ケンナは、ペルーの憲法 134 条には触れていない。

ペルー共和国大統領は、議会が 2 つの閣僚評議会（ペルー内閣の正式名称）を問責または信任しない場合、議会を解散させる権限を有する。解散命令には、新しい議会の選挙を召集する内容が含まれている。

カスティージョ大統領が議会を解散しようとしたとき、彼は憲法 134 条を引用し、「一時的な」閉鎖に過ぎないことを明らかにした。大統領は、新しい議会選挙をできるだけ早く実施すると述べている。

ケンナ大使は、こうした背景をすべて無視したのである。その代わりに大使は、「米国はカスティージョ大統領に対し、議会を閉鎖しようとする試みを撤回し、ペルーの民主的機関が憲法に従って機能するようにすることを強く求める」と宣告したのであった。

（新藤通弘訳）